

三上敏子さんが「聖マルティンの家」での日々をレポートしてくださいました！

エルピス会便り
61号増刊号

カペディスの子供達との約2か月間（2023年9月3日～10月28日）

子供たちの生活

三上敏子

カペディスで生活をしている子ども達は、全員成人している10名で、他には、介護付きで部屋を借り一人暮らしをしている1名、母親との暮らしが1名、カペディスの敷地内にある居室で生活し仕事に通っている1名、会社に勤めながら自分の家とカペディスの敷地内に居室を持ち、仕事としてアルパカ輸出の仕事と経理の掛け持ちをしている1名。この4名は、全員カペディスで育った人たちだ。

それから、知的・身体障害は無いが、精神疾患があり、カペディスの部屋で自炊しながら夜間の高校に通って自由な生活を送っている1名。

今回、ご紹介するのは、カペディスに居住し、生活しているうちの9名の子供たちの生活。



平日は朝6時～6時半迄に起床、髪をとかしてすぐ朝食。パンとお茶か牛乳の朝食を済ませ、歯磨き・洗顔・排尿を済ませて慌ただしく車に乗って40分かかる障碍児(者)専門の学校へ。

12時半前後に帰宅し、昼食、自分の使った食器は自分で洗うよう指導を受けて、歯磨きをする。それぞれ食器拭き、食堂の床の拭き掃除、モップで拭き掃除と仕事の分担で動く。そういった仕事の出来ない子は休憩。

14時、学んだり、遊んだりする居室へ行き、学校の宿題をやったり、知育玩具で遊んだり。教室の活動は強制ではなく自由に入出りが出来る。毎週金曜日は、車で乗馬へ行き、1人ずつ乗馬を体験、乗馬が無理な子2名は、馬の顔に直接触れる体験をする。

夕食の17時半くらいまで教室で過ごしたり、リハビリを受けたり、シャワーをしたり、洗濯物がある子は私物の洗濯をしたりする。

夕食後は食器洗い、歯磨きや食堂の掃き・拭き掃除、食器拭き。その後、サンマルチンとマリア、ヨセフとキリストの像のある祈りの部屋に集まり、祈りの会が始まる。

その後は、そのままその部屋でテレビを見るなど、自由に過ごし、19時半から20時ころ就寝。子どもによっては21時ころまで過ごす。

毎週日曜日は車で近くの教会に9時から始まるミサに出かけ、1時間のミサに参加して帰宅する。教会の神父様はいつもカペディスの子供たちに握手し、優しく接してくれる。



学校や乗馬、教会のミサに車で出かけることは、子供たちにとって外界に出て人々と触れ合えるチャンスであり、貴重な楽しみでもある。

昭子さんは、車で遠くの公園に連れだすなど、カペディスの生活に変化をつけるよう計らっているが、車いす対応など職員の人手が多数必要なことから頻繁には出来ない。

ELPIS

ホスエとお月見

ボリビアは標高が高いので月や星が大きくすごく輝いている。私はお月見が好きで、カペディスの中庭に出て月を眺めていると、いつの間にかホスエがそばに来て、笑顔で月を指さしていた。電動車いすだから、自由に動ける。しばらく二人でお月見をした。吸い込まれるような月の神秘さに、ホスエも私同様、感動を覚えたに違いない。次回は全員とお月見をしたいと思う。

ローナルのこと

ローナルは全身の機能が衰えていく病を抱え一人暮らしをしている25歳の大学生で、今年の12月には卒業予定。昭子さんと来日したので、ご存じの方も多いただろう。

体調が悪い時は、カペディスで休養し、元気な時は一人暮らしをしながら通学している。できることは、思考や会話、スマホやパソコン操作、電動車いすの操作で、昭子さんの良きアドバイザーでもある。

生活もろもろの事は24時間介護の手が必要で、お金を払って介護の人を雇っている。生活費は色々な人の支援で賄われている。

コロナ流行以前は、レストランやイベント会場、または路上で自作の歌を歌い、収入を得ていたが、社会が一変した今、得意のパソコンやスマホを活かした仕事を引き受け、様々な仕事を見つけている。日本とは違い、社会福祉保障の無いボリビアで、独立した一人暮らしを続けているということが、どんなに困難な現実か、実際に住んでみると身に染みて感じるものがある。ボリビアでは、そうは例のない重度障害者の自立生活を続けられるようローナルに心から支援と声援を送りたい。皆様も応援お願いいたします。



昭子さんの教育方針

昭子さんの忙しい合間を縫って、まとまった時間で話を聞くことが出来た。

ローナル以外の4人の女性、ロスメリー、エレナ、シエロ、パオラは昭子さんの願いの許で、食事づくり、洗濯、掃除など身の回りのことを自分ですることに向かって進みつつある。将来的には、ローナルの様に、一人住まいも視野に入れた指導の最中だ。

他に、自立までは望めない知的レベルの子には、できるだけ自分のことは自分ですよう指導すること。大人の働きかけが無ければ、子ども達は、何もせずに日常が過ぎていき、「出来る能力」は伸ばせない。さらに何もしないまま、周りの大人がしてくれることに慣れてしまい、ただ、怠惰になっていく。出来る能力を伸ばしてやり、出来ることの充実感、自分が必要とされていることの喜びを感じさせてやりたい。

今、グラシエラ、ロサリオ、ホスエに目標を定めて対応を考えている。

ホスエについては、感情が豊かで、話を理解しつつも、言葉は話せないが、声で意思表示をするようになったので、パソコンのような機械で自分の言いたいことを表現できるように訓練が必要と。

昭子さんの願いは子ども達が生き生き出来る生活環境。実現には、人的・経済的な問題が大きく申し掛かっている。私は昭子さんから子ども達への抱負を聞くのが一番好きだ。昭子さんは、現実の厳しさにままたらぬ心の葛藤をたくさん抱えている現状だが、めげずに向かっていく強さには本当に感心するばかりだ。（※写真は昭子さんから届いた日常風景を使用）